

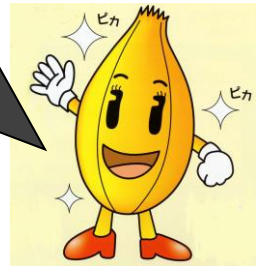
大麦栽培管理情報(第3号)

平成 31 年 2 月
アルプス農協管内農業技術者協議会

今冬は積雪が少なかったものの、降水による湿害があちこちで見受けられます。

圃場をこまめに見回り、速やかに管理作業を開始しましょう。

まずは排水対策の徹底と追肥で、体力回復を図り、茎数・穂数の確保につなげましょう！



1 排水溝の点検・手直し

圃場内の停滞水を排除するため、排水溝の点検・手直しを行いましょ。また、排水口は深く掘り下げ、確実に溝と連結しましょ。



<点検のポイント>

- ・水口がしっかり止まっているか？
- ・連結した排水溝に水が溜まっていないか？
- ・排水溝が埋まっていないか？
- ・掘り下げた排水口から水が抜けているか？



2 越冬後追肥（分施体系のみ※1）

この時期の追肥は、大麦の生育を回復させ、適正な茎数や穂数を確保するために重要です。

分施体系で栽培している場合は、晴れ間を見て、速やかに追肥しましょ。

施用時期	肥料名	施用量
3月初め	硫安つぶっこ	20kg/10a 以内※2

※1: 生育が旺盛な場合は減肥してください。

※2: 肥効調節型(基肥一発)肥料を施用した圃場では、今後、肥料成分が溶出するので、基本的には追肥の必要はありません。(ただし、葉色が淡い場合は営農指導員等にご相談下さい。)